2017年5月1日

Ms Inger Andersen
Director General of IUCN
(IUCN 事務局長)

Mr. Sean Southey
Chair, IUCN Commission on Education and Communication
(IUCN 教育コミュニケーション委員会)

Ms. Angela Andrade
Chair, IUCN Commission on Ecosystem Management
(IUCN 生態系管理委員会)

Ms. Kristen Waker Painemilla
Chair, IUCN Commission on Environmental, Economic and Social Policy
(IUCN 環境経済社会政策委員会)

Mr. Jon Paul Rodriguez
Chair, IUCN World Species Survival Commission
(IUCN 種の保存委員会)

Mr. Antonio Benjamin
Chair, IUCN World Commission on Environmental Law
(IUCN 世界環境法委員会)

Ms. Mackinnon, Kathy Mackinnon
Chair, IUCN World Commission on Protected Areas
(IUCN 世界保護地域委員会)

Mr Tim Badman
Director, IUCN World Heritage Programme
(IUCN 世界遺産プログラム・ディレクター)

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地の視察の際、
辺野古・大浦湾も視察することを求める要望書

IUCN におかれましては、日本国沖縄県名護市の辺野古・大浦湾での米軍基地建設計画に関する4度の勧告採択はもとより、昨年、米国ハワイ州で開催されたIUCN第6回世界自然保護会議において同基地建設に関わる環境問題をお話しする機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。今回は、同基地建設に関わる環境問題解決に向け、これまでの経過を踏まえた私の懸念とIUCNへの要望をお伝えしたくこの手紙をお送りしています。

現在日本政府は、名護市民そして沖縄県民の長年の反対の声を無視し、日本で最も生物多様性の豊かな沿岸地域であり、沖縄県の『自然環境の保全に関する指針』において評価ランクⅠ（最高ランク）と指定されている辺野古・大浦湾において、基地建設のための埋立工事を実施しようとしております。（別添パンフレット参照）

日本政府は、1）基地の建設と運用は環境に悪影響を与えない、2）保全措置が適切かつ十分である、と結論づけた沖縄防衛局の環境影響評価（2012 年）に基地建設の根拠をおいています。しかし、その結論とそれに至った過程については、科学者や専門家、環境 NGO、（沖縄県の環境影響評価審査会）から多くの問題が指摘されており、名護市の環境を守る立場にある私としても到底納得できるものではありません。特に、環境影響評価の手続きで結論を下した「専門家」の氏名が非公表であり、その結論に科学的担保がない状況といっても過言ではありません。

日本生態学会を含む 19 の学会により出された合同声明（2014 年）は、「最近発見された未記録、未記載種が掲載されていない」「多様な生態系が複合しているこの海域の特異性がきちんと評価されていない」とし、再調査、再評価を求めております。また、同地域ではジュゴンの食み跡を確認できなかったとした 2012 年の沖縄防衛局の環境影響評価の調査結果にもかかわらず、その後、環境 NGO の調査や 2014 年に行われた沖縄防衛局自身の調査でも、建設予定地で食み跡が多数確認されております。さらには、埋立てのために沖縄県外から多量の土砂を搬入することに伴う外来種の侵入問題についても、適切な措置が取られているとは言えません。

ジュゴンや外来種の問題は、IUCN の勧告でも取り上げて頂き、また昨年の IUCN 第 6 回世界自然保護会議で私も言及する機会を頂きましたが、効果的、実質的な解決措置はいまだに取られておらず、IUCN の勧告が守られていないのが現状であるというのが私の認識です。

辺野古・大浦湾は、地域の人々の命を支えてきた豊穣の海です。私も大浦湾を有する久志地域の出身であり、その豊穣の海の恩恵を受けてきました。同時に、辺野古・大浦湾は、脆弱な島嶼生態系の一部であり、開発等を通して露呈されるその脆さを私も地域の一人として認識させられてきました。

現在、地元である名護市や沖縄県が埋立工事に反対していることをまったく顧みることなく、環境影響評価の結果が問題視されている事実をも無視し、頭越しに日本政府と米国政府が強引に辺野古・大浦湾を破壊しようとしている現実が目前に迫っております。破壊の危機にさらされている故郷の海を見るのは、非常につらく悲しいことです。それが限りなく綺麗で、世界中探してもここにしかない特別な海であればなおさらのことです。辺野古・大浦湾における基地建設は、単なる基地問題ではなく、極めて重要な環境問題であり、市民・県民の魂の問題であります。日本政府は、国を守るために沖縄に米軍基地が無くてはならないと主張しております。日本の国土のわずか 0.6％の沖縄県に国内の約 70％の米軍基地が集中している現状に加えて、既存の基地を機能強化する計画に、県民は例えようのない憤りを感じております。それゆえに、この問題は、民主主義の原則と科学的知見に基づいて、解決されなければならないと私は考えています。

2017 年 2 月 1 日に日本政府より、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地（以下、「世界自然遺産推薦地」）について推薦書が提出されたことを受け、IUCN がこの夏にも現地調査を行うことと理解しています。辺野古・大浦湾は、日本政府が世界自然遺産候補地の一つとして推薦した「沖縄本島北部」の生態系の一部であり、推薦地域から 20ｋｍも離れていません。今回推薦された候補地と比べても、その自然環境にまったく遜色はなく、匹敵するような貴重なものであると認識しております。そこで、この夏に予定されている世界自然遺産推薦地の現地調査の際に、ぜひとも下記の要望事項についてご高配いただきたくお願い申し上げます。

名護市長として、今後も IUCN へ積極的に協力していく所存であります。良いお返事を心からお待ちしております。

要望事項

１．今夏予定している視察に外来種の専門家の同行をお願いしたい。

辺野古・大浦湾と世界自然遺産推薦地は 20ｋｍも離れていません。２.で述べる米軍普天間飛行場代替施設建設事業に伴い、沖縄県外から 2,100 万㎥の埋め立て土砂が使用され、1,700 万㎥が埋め立てのために県外から名護市の海域に搬入される予定です。日本自然保護協会をはじめとする環境団体は埋め立て土砂に付着して入ってくる外来種について疑問を投げかけています。名護市の海域に搬入される土砂に外来種の混入があれば、世界自然遺産推薦地にも移動する可能性が高いと思われます。昨年 9 月の IUCN 第６回世界自然保護会議においても、勧告「島嶼生態系への外来種侵入経路管理強化」が採択されており、国内の物資の移動についても、外来種の侵入防止対策を取る必要性が記されております。したがってこの点について、該当分野の専門家に直接ご覧いただきたく思います。

２・辺野古・大浦湾を視察していただきたい。

名護市辺野古では米軍普天間飛行場代替施設建設事業が進行中です。この地域に対しては、アセスとジュゴンなどの希少種の保全に関する勧告を 3 度（2000 年、2004 年、2008 年）、島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化に関する勧告を 1 度（2016 年）、IUCN から出していただいております。今年予定されている視察先にぜひこの事業実施区域も含めていただきたい。そしてこれまで、IUCN が出した勧告に日本政府がどのように対応しているのかを現地で確認し、対応策を検討していただきたい。さらに「米軍普天間飛行場代替施設建設に伴う埋め立て」、「今後増加することが予想される軍事訓練」が環境に与える影響について、専門的知見からご意見を伺いたい。

３．２．の視察実現の際には名護市との意見交換の時間を設けていただきたい

小笠原諸島が世界自然遺産に登録される際の視察では、住民との意見交換を行う時間が設けられたと聞いております。辺野古・大浦湾を有する当事者、名護市として、意見交換の時間を設けていただきたく思います。

４．軍事活動とその環境への影響について、さらなる関心を持っていただきたい

環境保護の観点から、基地建設を含む軍事活動に対して、何らかの対策がとれないかを積極的及び継続的に議論・検討・実行していただきたい。特に埋め立ての影響と増加することが予想される軍事活動が環境へ及ぼす影響について、ＩＵＣＮの専門家の意見を求めたい。

視察に当たって検討していただきたい事項

１．米軍普天間飛行場代替施設建設事業の法的手続きの点については、第三者委員会の委員をつとめ、同事業の公有水面埋立承認申請に係る名護市長の意見提出の際に市長意見聴取会の委員をつとめた、沖縄大学名誉教授の桜井国俊氏（※１）の意見を聴取していただきたい。

２．米軍普天間飛行場代替施設建設事業では、埋め立て土砂として沖縄県外から 1,700 万㎥の土砂の搬入が計画されている。埋め立て土砂の影響については、日本自然保護協会（NACS－J）の安部真理子氏（※２） の意見を聴取して頂きたい。安部氏は同事業の公有水面埋立承認申請に係る名護市長の意見提出の際に市長意見聴取会の委員をつとめている。また、海域生態系への影響についても、同氏の意見を聴取して頂きたい。

３．米軍訓練に伴う騒音の大きさや環境への影響については、琉球大学准教授の渡嘉敷健氏 （※３）の意見を聴取していただきたい。渡嘉敷氏は同事業の公有水面埋立承認申請に係る名護市長の意見提出の際に市長意見聴取会の委員をつとめている。

４．米軍普天間飛行場代替施設建設問題ならびに米軍北部訓練場と世界自然遺産の問題に関する環境 NGO・市民と日米政府のやり取りについては、同要請交渉に関わってきた名護市民であり、ジュゴン保護キャンペーンセンターの国際担当、Okinawa Environmental Justice Project 代表である吉川秀樹氏（※４）の意見を聴取して頂きたい。

※１　sakurai@okinawa-u.ac.jp
※２　abe@nacsj.or.jp
※３　tokat@tec.u-ryukyu.ac.jp
※４　yhidekiy@gmail.com

日本国沖縄県名護市
市長　　稲嶺　進